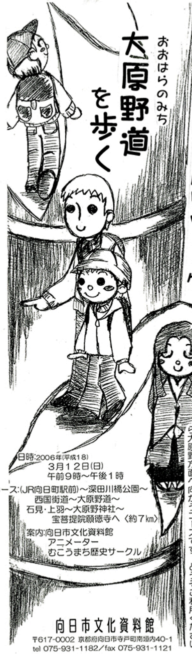


むこうまち発！歴史ウォーク

大原野道（おおはらのみち）を歩く

日時：2006年（平成18）
3月12日（日）
午前9時～午後1時

コース：（JR向日町駅前）～深田川橋公園～
西国街道～大原野道～
石見・上羽～大原野神社～
宝菩提院願徳寺へ〈約７km〉

案内：向日市文化資料館
アニメーター
むこうまち歴史サークル

２００６年３月２６日（日）に実施した歴史ウォーク（１２日実施予定が雨天のため順延）の資料です。ＪＲ向日町駅前から大原野方面へ向かうコースです。どうぞご利用ください。

向日市文化資料館
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-1
tel 075-931-1182／fax 075-931-1121

宝菩提院廃寺（ほうぼだいいんはいじ）　向日丘陵の尾根へ登る坂道の両側にひろがる寺院跡。付近からは７世紀末の白鳳時代から平安時代末にかけての出土品が多く発見され、寺伝によれば古代には仏華林山願徳寺（ぶっけりんさんがんとくじ）という名の大寺院で、「寺戸」の地名のおこりとみられています。鎌倉時代末期に天台宗の僧澄豪（ちょうごう）によって、宝菩提院の名で密教の道場として再興されましたが、応仁の乱で伽藍が全焼し、やがて寺域は現府道北側の一角になったようです。

国宝の菩薩半跏像（ぼさつはんかぞう）を本尊とすることで知られていましたが、昭和37年（1962）に本尊が大原野勝持寺へ移され、２年後には建物も解体されました。

湯屋跡（ゆやあと）

平成15年（2003）２月、住宅開発にともなう発掘調査で、湯釜をすえた竈（かまど）の跡や石敷き遺構、建物跡などが発見され、願徳寺に設けられた平安時代前期の湯屋（お風呂場）跡とわかり、大ニュースになりました。

阪急東向日駅

現在の阪急京都線は、昭和３年（1928）11月、京都で挙行された昭和天皇の即位式「御大典（ごたいてん）」に合わせて開業した路線です。京阪系列の新京阪鉄道としてスタートしましたが、戦後に阪急の路線となりました。駅名は「東向日町」でしたが、昭和47年（1972）に向日町が市制施行により向日市となった時に、“町”をとって「東向日」となりました。

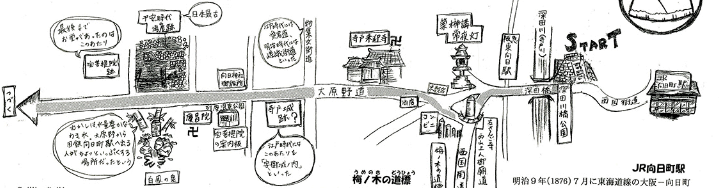
築榊講常夜燈（つきさかこうじょうやとう）

築榊講は、寺戸の伊勢参りの講の一つです。天保13年（1842）にその講が、現在の向日市内で最大の常夜燈を建てました。昭和初年に鉄道の線路や新道（現在の府道向日町停車場線）ができて、場所は少し動いていますが、昔から西国街道を往来する人々の目印になっていたことでしょう。以前には横に「トウロウ」と通称された家があり、代々燈明の番をされていたそうです。

西国街道から

西国街道は、京都の東寺口を起点とし、摂津の西宮に通じる古くからの街道で、京都から西国に向かう幹線道路です。豊臣秀吉が朝鮮出兵にあたって、大量の軍勢や物資を動かすために拡張・整備したことから、江戸時代には「唐海道（からかいどう）」とも呼ばれました。向日神社の門前に栄えた向日町（むこうまち）は、街道整備の一環として、この時に設けられた町場です。

京の町からみると、西方浄土を連想する西山には、大原野神社や勝持寺をはじめ、数多くの寺社が点在しています。西国街道を通って乙訓・向日町に至り、大原野へと向かう道は、西山の寺社を参詣する人々でにぎわいました。


大原野へ
N
最後までお堂があったのはこのあたり
宝菩提院跡
平安時代の湯屋跡
日本最古
つづく
大原野道
向日神社御旅所
江戸時代には愛宕道、明治時代には嵯峨街道といった
物集女街道
寺戸来迎寺
築榊講常夜灯
阪急東向日駅
深田川（寺戸川）
START
JR向日町駅
西国街道
深田橋
深田川橋公園
米穀店
酒店
コンビニ
右さんご寺 西山上人御廟道
西国街道
梅ノ木の道標
寺戸城跡？
江戸時代にはこのあたりを「字御城ノ内」といった
慶昌院
列慶児童公園
宝菩提院の案内板
むかしは水量豊かなわき水。大原野から国鉄向日町駅へ出る人がちょっといっぷくする場所だったという
白鳳の泉

「列慶（れっけい）」（列見（れっけん））の由緒

府道（大原野道）沿いの祠をまつる小さな広場は、江戸時代から、向日神社の御神輿（おみこし）が立ち寄る場所です。寺戸の宮座の長老が並んで出迎えるところから「列見」と呼ばれてきました。「列慶」は現代の宛て字です。

府道上久世・石見上里線（大原野道）　この道は、江戸～明治期には宝菩提院までの道で、大原野・西山方面へは一本北側の藪なかの道が使われていました。

明治時代の末頃から道幅を拡げ、一部は路面を切り下げ、宝菩提院の西側へも道を続ける大きな工事が行われ、昭和初年には西国街道から真西へほぼ一直線に通る大原野へのメインルートとなりました。この道路工事で、古代の願徳寺のものとみられる塔の心礎を含む礎石や、大量の瓦が発見されています。

地元の方のお話によれば、道路が拡がってからは、鉄道の駅から大原野へ向かう乗り合い馬車（昭和戦前期）や木炭バス（昭和17年前後）が通っていたそうです。

梅ノ木（うめのき）の道標（どうひょう）

西国街道から、西方の大原野へと向かう道が分かれる地点に、道標が立ち並んでいます。大正９年（1920）建立の大原野神社の道標をはじめ、寺戸にあった宝菩提院や西岩倉金蔵寺の観音参り、小塩山頂の淳和天皇陵や寺戸の桓武天皇皇后陵を訪ねる、大正期にブームとなった皇陵巡拝など、いろいろな目的で歩く人々のために建てられています。

江戸時代前期の17世紀中頃の絵図に、梅ノ木に茶屋が並んでいる様子が描かれていて、古くからにぎわいをみせていたことがわかります。

寺戸城跡？

大原野道が物集女街道と交わる南西の角は、江戸時代の耕地図によれば小字名を「御城ノ内（おしろのうち）」といい、周囲に堀跡らしき地割りもみられます。中世寺戸の土豪の館跡かと考えられてきましたが、発掘調査では明確な遺構が確認できませんでした。

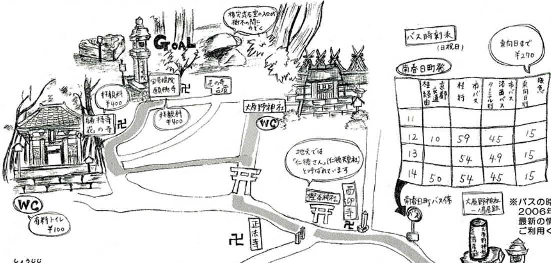
JR向日町駅

明治９年（1876）７月に東海道線の大阪－向日町間が開通し、京都府下で最初の駅として開業しました。駅前から南西に延びる道が西国街道です。街道と交差する地点に駅が設置されたのは、鉄道から道路、道路から鉄道への連絡に便利だったからでしょう。鉄道が開通すると、向日町駅前は乙訓地域の新たな玄関口となりました。

深田川（寺戸川）　嵐山から松尾にかけての地点で桂川から取水し、桂・川島・寺戸をへて羽束師で再び桂川に注ぐ人工の潅漑用水路。今から1,400年以上前の古墳時代後期に、大陸からの渡来系氏族である秦（はた）氏が、原形を造ったといわれています。室町時代には「今井用水」の名で知られ、水利権をめぐる争いがしばしばおこりました。

深田橋　西国街道が通る深田橋は、江戸時代始めには京都の代官が管理する橋でしたが、正徳４年（1714）に地元の寺戸村民が相撲の興行をして集めた資金で石橋に架け替えてからは、村の管理となりました。

※2006年に作成した資料です。最新の情報をご確認ください。


横穴式石室の入口が樹木の間にのぞく
GOAL
宝菩提院願徳寺
花の寺山門
拝観料 ¥400
拝観料 ¥400
勝持寺 花の寺
大原野神社
WC
WC
有料トイレ ¥100
地元では「仁徳さん」（仁徳天皇社）と呼ばれています
樫本神社
西迎寺
正法寺
南春日町バス停
大原野神社一ノ鳥居跡
灯ろう
灯ろう

バス時刻表（日祝日）

東向日まで ¥270

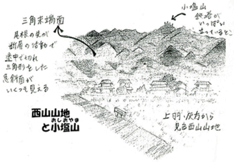
南春日町発

	京都交通 桂経由	市バス 桂行	市バス 洛西バスターミナル行	阪急 東向日行
11				
12	10	59	45	15
13		54	49	15
14	50	54	45	15

※バスの時刻表は
2006年現在のものです。
最新の情報をお確かめの上
ご利用ください。

大原野　小塩山東麓の扇状地一帯をさす地名です。長岡京期の延暦11年（792）に桓武天皇が遊猟（ゆうりょう）し、平安京に都が遷ってからも、歴代天皇の遊猟地でした。藤原氏の氏神を勧請（かんじょう）した大原野神社もあることから、天皇・貴族の行幸（ぎょうこう）・参詣の地となり、多くの歌にも詠まれ、歌枕（うたまくら）としても名高い土地です。

小畑川（おばたがわ）　老ノ坂付近に源を発し、乙訓地域を南流して、淀大下津南方で桂川に注ぐ、全長15kmの河川。


小塩山 鉄塔がいっぱい立っているとこ
三角末端面
尾根の先が断層の活動で途中で切れ三角形をした急斜面がいくつも見える
上羽・灰方から見る西山山地

西山山地と小塩山（おしおやま）

石見（いわみ）城跡　大原野東部の石見集落の北東、善峰川に沿った場所に竹やぶとなっている台地があり、その縁からＬ字型の折れ曲がりを持つ堀や土塁が発見され、注目されています。室町時代の石見に小野氏の存在が知られ、そうした土豪の城跡とみられています。

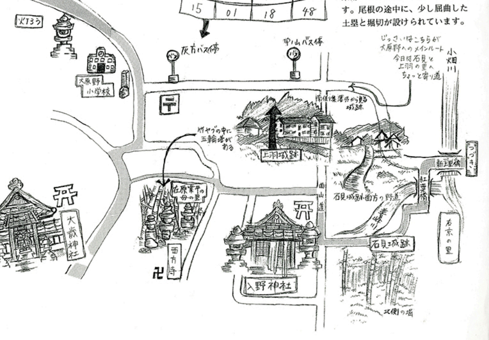
上羽（うえば）城跡　大原野の上羽集落から東南にのびる細い尾根上にあります。尾根の途中に、少し屈曲した土塁と堀切が設けられています。

バス時刻表（日祝日）

東向日まで ¥240

灰方発

	JR 向日町行	阪急 東向日行	JR 向日町行
12	03	18	48
13	03	18	48
14	01	18	48
15	01	18	48


灯ろう
灯ろう
大原野小学校
灰方バス停
南ノ山バス停
じっさいはこちらが大原野へのメインルート 今日は石見と上羽の里へちょっと寄り道
小畑川
南側集落から見る城跡
上羽城跡
竹ヤブの中に五輪塔がある
在原業平の母の里
西方寺
大歳神社
西山道
入野神社
石見城跡西方の野道
善峰川
紅葉橋
新上里橋
つづき
右京の里
石見城跡
北側の堀

勝持寺（しょうじじ）（花の寺）　山号を小塩山という天台宗の寺院。寺伝では、白鳳期に役小角（えんのおづの）が薬師如来を安置したのが草創とも、また桓武天皇が最澄に命じて伽藍を建立させたともいわれます。古くから桜の名所として知られ、平安後期の歌人として知られる西行（さいぎょう）ゆかりの「西行桜」が鐘楼の横にあります。鎌倉時代に盛大な花見を催したバサラ大名佐々木道誉（どうよ）や、安土桃山時代の文人でここに山荘をかまえ隠棲した木下長嘯子（ちょうしょうし）など、文雅の士との交わりが多い寺院です。

宝菩提院願徳寺（ほうぼだいいんがんとくじ）　もと向日市寺戸にあった寺院ですが、諸堂の荒廃が進み、昭和37年（1962）には国宝の菩薩半跏像（ぼさつはんかぞう）（本尊如意輪観音としてお奉りされる）をはじめとする諸仏が勝持寺に移されました。

現在の本堂は勝持寺東隣の地に再建され、平成８年（1996）には本尊・諸仏が安置されました。本尊は、国宝の仏像彫刻のなかでも、ことに美作として知られています。境内には寺戸にあった時からの石燈籠や手水鉢（古墳時代の石棺）などが、移し置かれています。

大原野神社

社伝によれば、延暦３年（784）の長岡京遷都の時、桓武天皇の皇后で藤原氏出身の乙牟漏（おとむろ）が、氏神春日社への参詣に不便なため、この地に春日明神を勧請したのが始まり、とされています。平安時代には天皇・貴族の崇敬を集め、室町時代には幕府の祈願所となりました。

戦国時代に一時衰退しますが、江戸時代に入ると後（ご）水尾（みずのお）天皇の時に再興され、現在の本殿は慶安年中（1648～52）に造営されました。

入野（いりの）神社　上羽集落の鎮守。「延喜式」神名帳に名前がある式内社です。祭神は大原野神社と同じで、もとは大原野神社の御旅所とも、春日神が勧請された時に最初に鎮座した場所ともいわれています。

在原業平（ありわらのなりひら）の母の遺跡　上羽集落西方の旧小字「長岡」の場所が、平安時代の歌人在原業平の母で、桓武天皇皇女の伊登（いと）内親王の隠棲地といわれています。

その奥の竹やぶのなかには、在原業平とその父母の供養塔と伝わる３基の五輪塔があります。業平と母との歌のやりとりは『古今和歌集』に収録されて名高く、江戸時代には多くの文人が訪れる名所となっていました。

大歳（おおとし）神社　灰方集落の鎮守。入野神社と同じく式内社。祭神の大歳神は、神々の系譜によれば向日神社の祭神向日神の親神とされます。江戸時代には栢森（かやのもり）大明神とも呼ばれました。

【参考文献】
『路 西山街道』（星光社、1973年）
『京都地学ガイド』（法律文化社、1978年）
『京都市の地名』（平凡社、1979年）
『向日市史』上巻（1983年）、下巻（1985年）
『大原野』（大原野自治連合会、1990年）
『乙訓の道しるべ』（向日市文化資料館、1990年）
『西国街道と向日町』（向日市文化資料館、1999年）
『京都乙訓・西岡の戦国時代と物集女城』（文理閣、2005年）
仏華林山宝菩提院願徳寺ホームページ（info@gantoku.or.jp）

イラスト：佐藤雅